

月刊

GPP



Vol.68

令和3年6月号

株式会社
グロースパートナーズ

がんばれニッポン！ホントに弱い国になっちゃうぞ！！

「最も早い梅雨入りか・・・」と言われたが、結局、例年より遅くなった。今年の夏は猛暑とのこと。

昨秋の菅首相の所信表明以来、とにもかくにも“カーボンニュートラル”の話題に毎日こと欠かない。製造業、しかも欧米企業と取引している企業は特にその意識が強く、実際「2030年までに再生エネルギーを100%にせよ」と問答無用で突き付けられている。彼らにとってはカーボンニュートラルはフワツとしものではなく輪郭がハッキリとしたゴールとなっているのだ。

かたや、建設業界はどこかフワツとしたままであり、しかもかなり臍げな陽炎のように思えてならない。RRCsが3月に開催した座談会でも幾つかのCO2削減効果の技術が紹介されたが、一部を除いて、まだまだ流通するには程遠いものが殆どだ。ことコンクリートに限って言えばもともとCO2を吸収・固定化する特性を持っているにも拘わらず、何やらヤヤコシイ独自製品を各社が競い合ってリリースしている。そして、ここにこそ建設業界の外圧無しの“平和ボケ”の様子を伺うことが出来るのだ。

そういったコンクリートをリリースしている大手ゼネコンの方々に「その資材は各社が共通で使用出来て、CO2削減に貢献出来るほど流通可能か？そして、そのロードマップはあるか？」の問いに、真っ当に答えてくれる人は恐らくいないであろう。最も、よく考えたらゼネコンとは施工する人であって資材生産者ではないから、そもそもなぜ施工者が資材開発をしているのか、理由がいまだに良く分からない。

先日、政府から成長戦略計画案が提示された。その中でも「CO2を吸収するコンクリート」が主役級で取り扱われている。このこと自体は国内需要が減少しているセメント・コンクリート業界にとってはとても好ましい状況であることは間違いない。ただ、そんな政府からの公的文章に、当事者のセメント・コンクリート業界からの提言はあったのか甚だ疑問だ。

先日、準大手ゼネコンの購買部の実働部隊の方と会議をする機会があった。それなりのポジションで環境分野にも携わっている方であるが、“CCU”という単語を知らなかったことに驚かされた。誤解しないで頂きたいが、彼の能力や人格を否定しているのではないし、当方の俄か環境知識をひけらかしているのではない。そのポジションの人材に、そういう教育をさせていない日本の大企業に驚かされているのだ。がんばれ、ニッポン。本当に弱い国になっちゃうぞ。

藤井 成厚

セルドロン[®]の3大特徴を改めてご案内

POINT

1



瞬間吸水性

ティッシュペーパーのように物理的に、水分を吸着いたします。

POINT

2



汎用性

ティッシュペーパーが吸えないものがないように有機系の土壌や油なども同程度の吸着効果があります。

POINT

3



低環境負荷性

セルドロンの材料は、100%紙です。

紙は、木のパルプ(セルロース)からできております。

土などに混ぜても時間をかけて生分解される材料です。

土木建築以外の用途があると思いますので、皆様が「流動性」で困っていることがありましたらお問い合わせください。

セルドロンの用途について

現在まで採用いただいた用途です。

- ①残コンの改質(モルタル・生コン・スラッジなど)
- ②堆積土・浚渫土の改質(ため池・河川・ダムなど)
- ③災害土砂の改質(広島・熊本・愛媛など)
- ④汚染土壌の改質案件(放射性物質対策土砂)
- ⑤アスベスト汚泥の改質(湿式処理工法の残渣改質)
- ⑥コンクリートカッター排水の処理(運搬用の改質)
- ⑦塗料の改質
- ⑧廃油や工場油の処理
など

セルドロンに関する

疑問質問は

営業 土井まで



03-4405-2642

公園の土壌に重金属が含まれており、土の入れ替えをしたが土の強度が出ない(低い)ため困っている。また、場所的にも水位が高く少し掘削すると、ぬかるんでしまう。公園なのでセメントは使いたくないし、重金属を溶出しないために土の入れ替えをしたので変なものを入れたくないとのことでセルドロンも含めてご検討いただいております。